

憂

田中康夫

今月の憂いコト

図書館の新しい役割から、
イタリアの五つ星運動、
TPPによって押し寄せる
遺伝子組み換え作物まで！

大阪・中之島にある大阪府立中之島図書館で
100年を超す建物の歴史を感じながら、
これからの図書館のあり方を語る田中・浅田両氏。
さらに、イタリア、五輪、TPPをキーワードに
世界の”不可解な出来事“を読み解いた。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

浅田彰

憂国呆談

season 2 VOLUME 34

電子化する図書館と コミュニティの創造

浅田 今月は図書館特集することで大阪府立中之島図書館を訪れた。旧・本館は大阪に図書館らしい図書館がなかった明治37年に住友の商家からの寄付によって建てられたもの。ちなみに、その頃は京都でも多くの小学校が市民の寄付で建てられてる。貧富の格差が大きかったにせよ、良識のある金持ちがいたってことだね。

田中 解体か保存かで町内が揉めて、僕も知事時代に激励に駆け付けた滋賀県豊郷町豊郷小学校の旧校舎も町立図書館として保存されて、アニメ「けいおん！」の舞台として「巡礼者」が相次いでいる。

浅田 アメリカが賢いのは、そういう寄付を免税にしていること。図書館や美術館、あるいは大学の建物や講座に寄付者の名前をつけて顕彰するから、名譽を求めて寄付する人も多い。メトロポリタン・オペラのプログラムなんて、後ろに寄付者のリストがあって、金額によって活字の大きさが違う(笑)。多少とも見識のあるような金持ちを寄付で競わせるほうが、行政が税金で中途半端なことをするよりはましだろう、と。

田中 神社の寄進と同じ仕組みだね。ウィリアム・ヴォーリーズが設計した旧・豊郷小学校も、伊藤忠商事や丸紅の前身の伊藤忠兵衛商店の番頭だった地元出身の古川鉄治郎が寄付をした。東大の安田講堂、一橋大の兼松講堂も経営者として財をなした人物が寄贈している。ネーミングライツと称して既存の建物に企業名を冠するチャマチャ



した最近の「社会貢献」とは、スケールも哲学も違うよね。

浅田 現代の話に転ずると、近頃は本の電子化が進んで、アメリカでは本のない図書館、つまり、閲覧も貸し出しもすべて電子データの形で行う図書館もできた。どんな本でもどこからでもダウンロードして読める時代になりつつある、これはすごい進歩だと思ふよ。ただ、学術雑誌なんかでも、電子版だけ購読していると、出版社が潰れたら突然バックナンバーにアクセスできなくなるんで、公的な図書館がハード・コピーを保管しないと不安が残る。デジタルなんかがかわりにデータを保存してたらそれでいいじゃないかって言うけど、そうやって情報が一部の私企業に独占される傾向があるってこと自体、大問題だよ。現に、デジタルがやってる書籍の全文検索サービスは、著作権が切れた書籍は全文が公開され、電子図書館として機能してる。それはいいとしても、私企業であるグーグルが方針を変えたり、別の企業に買収されたりしたら、どうなるのか。そういう意味でも、公共図書館の存在意義はむしろますます大きくなってると思う。

あと、いわゆるグローバル化がすべてをアメリカ英語に還元するものだとすれば、多言語の相互翻訳こそが本当の国際化につながるわけで、元・京都大学総長、前・国立国会図書館館長で自動翻訳なんかのパイオニアである長尾真が言っていたように、東アジア多言語文化圏の核に位置する日本の図書館は、グーグル型のグローバル化に追随するんじゃないか、そういうもうひとつの国際化・多言語化の先頭に立つべきだ、と。

ひとつの見識だと思うけど、あんまり理解されてないと思う。

田中 その発想は大事な視点だね。他方でTSUTAYAが佐賀県の武雄市立図書館を運営する時代になった。

浅田 あれはむしろグローバル資本主義につながる民間化の一端でしょう。それが必ずしも悪いわけじゃないけど、民主主義が濫用されれば、市民から「村上春樹のベスト・セラーを買ってほしい」とかいりくエラストがくると、あらゆる図書館に春樹が何十冊もあるって状態になりかねない(苦笑)。むしろ、書店の店頭にはない珍しい本がちゃんとあるってのが図書館の意義なのに。一定のクオリティを維持するには、悪しき消費者主権に流されず、ある種のエリート主義でいくほかない部分もある。

田中 河川や森林と同様に書籍は社会的共通資本だからね。橋下徹



が、知事時代に大阪国際児童文学館を廃止したけど、残念だね。単に子どもに本を与える場所ではなく、例えば読み聞かせのワークショップが開かれたら、乳幼児に絵本を読むママがいる、世話好きなおばさんがいる、それによって小さな交流が生まれ、新しいコミュニティが生まれもするわけだから。そういうところに税金を投入しなきゃ。

浅田 そう。図書館その他の文化施設が漫然と運営されるのはよくない、それは橋下の言うとおりだけど、資本主義的な効率性だけで考えると、グーグルがあれば図書館はなくていいってことになる、それは危険な考え方だよ。そもそも文化予算なんてわずかなものなんで、そんなものをカットし

たって財政収支にはほとんど影響しないっ

田中 数値に換算できない部分を理解するかどうかは、まあ、人間としてのセンスの問題だね。

ローマ教皇の退位と 五つ星運動の躍進

浅田 ローマ教皇ベネディクト16世が退位したね。世界中で問題になってる聖職者による男児の性的虐待や、ヴァチカン内部の腐敗を、ひたすら隠蔽しようとした無責任な教皇だったけど、教会大分裂の時代から約600年ぶりの存命中の退位ってことで自ら退いただけでもましかも。

田中 宗教事業協会と呼ばれるバチカン銀行を筆頭に、財務や教会資産を扱う部署がヴァチカン市国行政庁、聖座財務管理局、福音宣教省といくつもある

のが、世界最大の財テク集団。それぞれのトップに自分の側近を就けた彼は、教皇就任前には人工中絶や避妊を認めぬ保守派の教理省長官として評価されていた人物だからね。

浅田 1960年代にヨハネ23世が教会の近代化を求め、第2ヴァチカン公会議を開くんだけ、会期中に急死し、後を継いだパウロ6世は改革を進められなかった。再び改革を進めようとしたヨハネ・パウロ1世が在位わずか33日で急死したときは、映画『ゴッドファーザー』でも描かれているように暗殺説が囁かれた。逆に、ヨハネ・パウロ2世は反動的だったからこそ社会主義と闘った英雄ってことになる。でも、社会主義が倒れた後は単なる反動でしかない。

彼を教義面で支えてたベネディクト16世も、まさにそう。今回、ラテン・アメリカ初

(かつイエズス会初)の教皇が選ばれ、かつて教会の金権腐敗に対し清貧をもって闘った聖フランシスコの名を取ってフランシスコ1世と名乗ったけれど、彼がその名にふさわしい改革を断行できるか、世界が目している。とはいえ、ピウス12世がナチス・ドイツと暗黙の共犯関係にあったって言われるように、彼も3万人もの死者と「行方不明者」を出したアルゼンチンの独裁政権に協力的だったって批判がすでに出てきているから、先が思いやられるけど。

田中 「貧困者のための質素な教会」をフランシスコ1世は宣言したけど、ローマの真ん中なのにイタリアの法律が及ばないヴァチカン市国は、フィリピンやナイジェリアといった敬虔な貧しい信者からの寄進をマネーロンダリングする世界最大のタックス・ヘイブンだからね。

ジュリオ・アンドレオッチ元・首相をはじめイタリア政財界の歴代幹部にコードネームを付けて金銭的便宜を与えていたのは周知の事実だし、ポーランド出身で反共のヨハネ・パウロ2世がCIAと連携して、デフ・ワレサが率いていた独立自主管理労働組合「連帯」に宗教事業協会を通じて資金援助していた闇もある。

浅田 ちなみに、ナンニ・モレッティ監督の『ローマ法王の休日』(2011年)ってのは、今にして思えば先見性があったと言わなければならないように」と祈る中、裏工作があったのか、ミシェル・ピッコリ演ずる枢機卿が唐突に当選しちゃう。突然、教皇になれと言われて精神的に追い詰められた彼は、バルコニーにお目見えする直前に

「無理だ」と叫びだし、果てはヴァチカンから逃亡しちゃう……。

そもそも、教皇は「神の代理人」として無謬性を持つとか何とか言いながら、実際は政治的に決められて腐敗した組織の上に君臨してきたわけで、その矛盾はもう隠しようもない。本気で改革しようと思ったら、一度、教会を解体しなきゃいけないんじゃないかな。

田中 アッシジの放蕩息子だった聖フランシスコも、清貧の教会を建立したものの官僚化していくフランシスコ会の組織に幻滅して、最後は隠遁してしまったものね。あまりに乖離した表と裏の偽善が、宗教でも政治でも、さらにはメディアの世界でも隠し通せなくなってきた。2月にイタリアで行われた総選挙で、コメディアアンのベッペ・グリッロが主導する政治団体「五つ星運動」が大躍進したのも、その一環だね。



田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を経て、現在、新党日本代表。

社会的な発言を繰り返し、メディアを批判し、テレビ業界から干され、マスコミからも無視され、彼の集会は何万人と集まっても大文字メディアでは報じられなかった。でも、ネットで燎原の火のごとくに広がっていった。

浅田 他方、前・首相のマリオ・モンティは、銀行から——というかこの場合はEUから送り込まれた管財人みたいなもので、国会議員じゃなかった。いくらなんでも、それじゃ国民の支持は得られない。

田中 ましてや、中道左派が緊縮財政論に立って、中道右派がシルヴィオ・ベルルスコーニ元・首相のばらまき政策についても、おかしなねじれ現象なわけで(苦笑)。

浅田 ポール・クルーグマンが強調するように、不況時に緊縮財政をとるなんて愚骨頂で、とりあえずケインズ主義でいくほかない。とくに左派なら、まずは雇用を確

保し労働者の所得を増やすよう主張すればよかったのに。何が何でも財政再建優先というEUエリートの間違った「良識」に、左派さえ引きずられちゃった。

問題は、ベルルスコーニなんかがそういう状況を逆手にとったポピュリズムで復活を狙っていること。他方、グリッロは、人気コメディアンでありながら、ベルルスコーニの独占するメディアに出るのを拒否し、草の根運動を展開して、今回、国会の第三勢力になった、それは大したものだけど、じゃあ、イタリアをどうすればいいのかわからない前向きなプランはもってないからね。

田中 なんだか日本と似ているね。「地位は人を駄目にする」というか「富すれば鈍す」というか、政治経験のない人間が議員や首長になっても、あつという間に保身ばかりが目立つ職業政事屋になってしまう。近未来のイギリス社会を舞台に描いたアラ・ムーアアのコミック『Vフォー・ヴェン

ゲッタ』のような、ねずみ小僧的行動や大岡裁きの裁定すら行えずにね。

昨年、イタリア政府の支持を得られずにローマが立候補を断念した2020年夏季オリンピックの招致合戦に熱心な東京都に、IOC(国際オリンピック委員会)の評価委員会が現地調査に来てたね。都知事の猪瀬直樹がパラリンピックを目指す選手とテニスに興じるのをサプライズ・プレゼントとして委員に見せたのには失笑したけど。

ところで、競技数が多すぎるとロンドン五輪では28から26に減らしたのに、今度の16年のリオ五輪では28に戻って、20年では再び26にするらしい(苦笑)。その一方で不思議なのが競技と種目に分かれていて、実は五輪には300種目以上もあるんだよ。その区分けの基準も実に曖昧で、例えば陸



今回のレスリング
除外決定も、IOC委員が
揃う総会ではなく、
15人だけの
理事会で
決定されている
不透明さに
抗議しなきゃ。(田中)

上競技は走り幅跳び、円盤投げ、マラソン、短距離など膨大な種目数を全部合わせて陸上という1競技。これに対してバレーボールは1競技1種目で、ビーチバレーも1競技1種目。なんか変でしょ？ この点こそ議論すべきで、だったらレスリングも柔道も剣道もフェンシングも武道という新しい競技の括りを設けて、その中に種目として位置付ければ問題解決なのさ。

レスリングが除外の危機に陥ったのは日本がロビー活動をサボったせいだとメディアは書くんだけど、それって、長野県の上山田温泉に当時のIOCのサマランチ会長を連れて行ったのと同じような金の使い方をしてなかったからだと言ってるのと同じでしょ、いやはや(苦笑)。

浅田 レスリング・ファンの小説家ジョン・アーヴィンが『ニューヨーク・タイムズ』に書いてたけど、射撃、フェンシング、水泳、馬術、クロスカントリーの5つを1人の選手が1日のうちにこなす近代五種なんてのは、競技人口も少ないしあんまり人気がない、それでも除外の対象にならないのはどうしてかと思ったら、国際近代五種連合の副会長がサマランチの息子だった、と(笑)。彼はすでにIOCの理事でもある。実にかがわしい世界だよ。

ルール・メイキングとTPPの驚くべき本質

田中 競技ルールが西洋の選手に有利に変わると黄色人種迫害だって騒ぎ立てるけど、日本もIOCの一員なのだから、きちんとルール・メイキングの場で議論できる人間がいないのが問題なんだ、と現在は筑波大学大学院の准教授で柔道指導者の山口香が述べていたけど、そのとおり。今回のレス

ちなみに、ナンニ・モレッティ監督の『ローマ法王の休日』(2011年)ってのは、今にして思えば先見性があったと言えるべきかも。(浅田)



リング除外決定も、IOC委員が揃う総会ではなく、15人だけの理事会で決定されている不透明さに抗議しなきゃ。

TPP(環太平洋経済連携協定)にしても、米の関税撤廃を阻止とか、国民皆保険制度を死守とか青年の主張をしている場合じゃないってね、安全や権利の聖域はどうなっているんですかという話なんだ。BSII「田中康夫のつぼんサイコー!」で元・西武百貨店の社長で参議院議員も務めた水野誠一と話したんだけど、アメリカで昨年発効した食品安全近代化法には、農家が在来種の種子を採種・保存して、翌年に蒔いてはいけないという条項がある。つまり、遺伝子組み換えのF1種の種子を毎年、買い続けるしかなくなる。しかもベトナム戦争で使われた枯葉剤に耐久性があるほどの強度な遺伝子組み換えトウモロコシや大豆が、アメリカでは市民

の猛反対で承認されていないにもかかわらず、日本では総選挙の最中の昨年12月5日に承認する方針を農水省と環境省が決定してしまったのだからね。

しかも例のISD条項では、「遺伝子組み換え大豆を使用していません」という納豆や豆腐の表示を日本では許しているの我が社の遺伝子組み換え種子の売れ行きが伸びない、とアメリカの種苗企業が日本政府を訴えることが可能だからね。実際にNAFTA(北米自由貿易協定)ではカナダとメキシコが多国籍企業から47件訴えられ、すべて敗訴。多額の賠償金を支払わされている一方、19件訴えられたアメリカは、すべて勝訴している。アメリカが主導する世界銀行の国際投資紛争解決センター(ICSID)が判断するんだから、答えはわかり切っている。世界の種子メーカーのシェアはモンサントを筆頭に今や7位までは欧

米の化学会社が占有し、遺伝子組み換え種子を開発、販売している。8位以下は種苗会社であるサカタのタネが入り、10位にタキイ種苗。でも、2社合わせても世界シェアは4%ほど。化学会社が強力な農薬を販売し、それに耐えられる遺伝子組み換えの種が必要となってイタチごっこ。農薬と遺伝子組み換えの種をセットで売る化学会社が種苗会社を買収してきたんだね。

日本最大の農業組織は拳を振り上げてTPP反対を唱えているものの、無農薬・無施肥で「奇跡のリンゴ」を青森県で栽培する木村秋則によれば、日本の農薬使用量は1ヘクタール当たり18・78キログラムでアメリカや中国の約20倍も使っているという驚くべきデータが存在する。ところが、TPPに反対する一方で農協は、規定量の農薬を購入しない組合員の収穫物を共同選果場へ出荷できないような、吉原の郭(状態を続けているからね。7兆円も投じて農村部のハコモノ公共事業に化けてしまい、自給率の向上には結び付かなかったウルグアイラウンド対策費の二の舞を繰り返す前に、「脱農薬依存宣言」すべきなんだ。

浅田 あたかもアメリカと中国の衝突が不可避であるかのように煽つとして、日本はアメリカの側につくしかない、だからTPPに参加するしかないって言う安倍政権の論理は間違っている。そもそも本来は、貿易戦争を避けるためにもWTO(世界貿易機関)全体での自由化を考えるべきだし……。田中 2010年に工業生産額、昨年は貿易総額も世界一に躍り出た中国と、アメリカが事を構えるはずもない。ビジネス最優先のアメリカの経済界が許すはずもないからね。その米の間で日本はどうするか、改めて冷徹に語るべきテーマだね。



浅田 彰

あさだ・あきら●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力ー記号論を超えて』はベストセラーに。